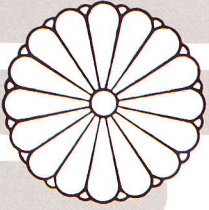


安房國一之宮



安房神社略記



祖神を偲ぶ天富命



《交通のご案内》



● 東京 ↓ 館山 (高速バス2時間)
館山 ↓ 安房神社前 (バス20分)
バス停より徒歩5分

〒294-0233 千葉県館山市大神宮589
安房神社社務所 TEL. 0470(28)0034
FAX. 0470(28)0438



宝物狛犬

文永元年(一二六四年)、日蓮上人が四十二歳厄年のおり一週間当社にこもって一心不乱に刀を振るい、誓願成就のお礼として奉納したのがこの狛犬である。

他に館山市の指定文化財として、高坏、燵箱、木椀、双鳥花草文円鏡、双鳥花草文八稜鏡がある。

神棚のまつり方

神棚は床の間に奉安するのが理想的ですが、一般には家の内で最も清浄を保ちやすく、朝夕の拝礼がしやすい場所が適当です。

よく神棚を設ける際に、その方向を云云しますが、古い伝えにより、東向きにまつるも宜し」とあります。

御神札のまつり方

神棚の正面に天照皇大神様の御神札をまつり、向って右側に氏神様の御神札をまつり、向って左側に八百万の神々様の御神札を御まつりします。

拝礼の仕方

まず水で手と口を清めて御神前に進み、祈念をこめて二拝(二度おじぎをする)次に二拍手し、もう一度拝(おじぎ)をします。

これは神社へ御参拝の場合、又家庭の神棚の拝礼のときも同様です。





本社御祭神（上の宮）

日本産業総祖神

あめのふとたまのみこと

天太玉命

相殿・后神

あめのひりとめのみこと

天比理刀咩命

撰社御祭神（下の宮）

房総開拓の神

あめのとみのみこと

天富命（天太玉命御孫神）

日本武道祖神

あめのおしひのみこと

天忍日命（天太玉命御弟神）

由緒・御神徳

こごしゅうい

「古語拾遺」や「先代旧事本紀」といった書物

によれば、安房神社の始まりは二六七〇年
以上前にさかのぼるといふ。現在下の宮に
祀られている天富命は、神武天皇の勅命に
より四国・阿波徳島の忌部一族を率い肥沃
な土地を求めて旅立つこととなり、海路黒潮
にのり房総南端のこの地に到着した。そして
上総・下総に進み麻や穀か（紙の原料）といった
植物を播種して、その産業地域を広げていっ
た。開拓を終えた天富命は、無事成し遂げ
られたのも祖先の御加護によるものだと考
え、祖父にあたる天太玉命をお祀りして、
祖先の恵みに感謝したのである。

置炭・粥占神事（二月十四・五日）

一月十四日の夕刻、正月に用いた門松の
松材で火をおこして粥を炊き、薪が燃え尽
きるころおきを十二本取り出して並べ、その
燃え具合によって神主が一年間の天候を
占定するのが「置炭神事」である。

一方の「粥占神事」は、すのこ状に編んだ
十二本の葦筒をその鍋に入れて一晩置き、
明るる十五日の朝、取り出した葦筒を一本
ずつ小刀で割って粥の入り具合やつやによ
りその年の農作物の豊凶を占定するという
ものである。

当社旧記には、これらの神事が宝暦年間
から行われていたことが記されている。



主な祭典

- 歳旦祭：一月一日
- 節分祭：二月三日
- 国司祭：九月中旬
- 有明祭：一月四日
- 建国祭：二月十一日
- 琴平社祭：九月二十七日
- 置炭神事：一月十四日
- 祈年祭：二月十七日
- 抜穂祭：十月上旬
- 粥占神事：一月十五日
- 桜花祭：四月初旬
- 新嘗祭：十月二十三日
- 御田植祭：五月上旬
- 新穀感謝祭：十一月下旬
- 下の宮祭：五月十日
- 神狩祭：十二月十六日
- 蔵島社祭：六月十日
- 大祓式：十二月三十一日
- 大祓式：六月三十日
- 除夜祭：十二月三十一日
- 忌部塚祭：七月十日
- 例祭：八月十日
- 御飯屋祭：九月十日

※その他毎月一日に
月次祭がある。

